

第3委員会報告資料

福岡市美術館リニューアル事業の
PFI方式での実施について

平成26年9月
経済観光文化局

福岡市美術館リニューアル事業のPFI方式での実施について

1. 事業概要

福岡市美術館は昭和54年11月の開館から35年が経過し、施設・設備の老朽化、スペース不足、ユニバーサル化の遅れなど様々な問題を抱えている。リニューアルにあたっては、これらの問題を解決するとともに、さらなる魅力向上、機能向上を図る。

(参考資料「福岡市美術館リニューアル基本計画の概要」参照)

2. 事業手法検討経過

平成23年度

大規模改修事業手法の検討調査

○ PFI方式導入による高い効果が期待できる

平成24年度

最適事業手法検討委員会の意見書

- 施設整備から管理運営まで一連の業務を包括して、民間ノウハウを最大限活用する仕組み作りが必要である
- 初期投資費用の平準化効果が大きく、民間ノウハウの活用効果が高い、「PFI方式」による事業化が適当である

福岡市美術館リニューアル基本計画の議会第3委員会報告（12月）

- これまでの個別民間委託を包括委託とし、民間ノウハウを活かしたプロモーションの充実などを通じ、来館者サービス向上、来館者増、運営の効率化を図る
- PFIの可能性を含め最適な事業手法の検討を進める

平成25年度

PFI導入可能性調査の実施

3. 検討した事業手法

○ 従来方式

資金調達は行政が行い、「設計」・「建設」・「維持管理」・「運営」を民間に個別に委ねる方式

○ DBO（Design Build Operate）方式

資金調達は行政が行い、「設計・建設」と「維持管理・運営」を民間にそれぞれ委ねる方式

○ PFI（Private Finance Initiative）方式

資金調達を民間が行い、「設計・建設・維持管理・運営」を民間に一括で委ねる方式

4. 事業手法の比較

	従来方式	DBO方式	PFI方式
資金調達	市債・一般財源		民間資金
施設改修費	56億5,300万円	48億500万円	48億500万円
管理運営費（15年）	80億3,100万円	76億9,300万円	76億9,300万円
金利その他	10億4,900万円	11億7,800万円	11億2,300万円
事業費総額	147億3,300万円	136億7,600万円	136億2,100万円
市収入額	6億1,800万円	6億8,300万円	6億8,700万円
一般財源負担額	141億1,500万円	129億9,300万円	129億3,400万円
削減額	—	11億2,200万円	11億8,100万円
各年度支出イメージ（H28～H45）	<p>※施設改修費の返還・金利負担は59年度まで</p>	<p>※施設改修費の返還・金利負担は59年度まで</p>	<p>※施設改修費の返還・金利負担は45年度まで</p>

※事業費総額等は概算額であり、官民の役割分担や事業内容の精査、労務・資材単価の動向などにより変動することがある

- 一般財源負担額の軽減 ⇒ PFI方式の削減額がDBO方式より大きい
- 財政負担の平準化 ⇒ DBO方式では、建設期間中に突出した一般財源負担が発生する
- 民間ノウハウ導入の効果 ⇒ PFI方式では、設計・建設・維持管理・運営を一括で契約するため民間ノウハウが最も発揮され、サービスの質の向上と効率化が期待される

一括発注による効果	民間ノウハウ活用による効果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の運営を踏まえた施設改修の実施 ○ 委託業務の一括発注による運営費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報力・集客力の向上による来館者の増加 ○ 的確なニーズ把握による魅力ある飲食・物販施設の設置・運営

民間ノウハウの活用、財政負担の軽減及び平準化の面から、PFI方式による事業化を進める

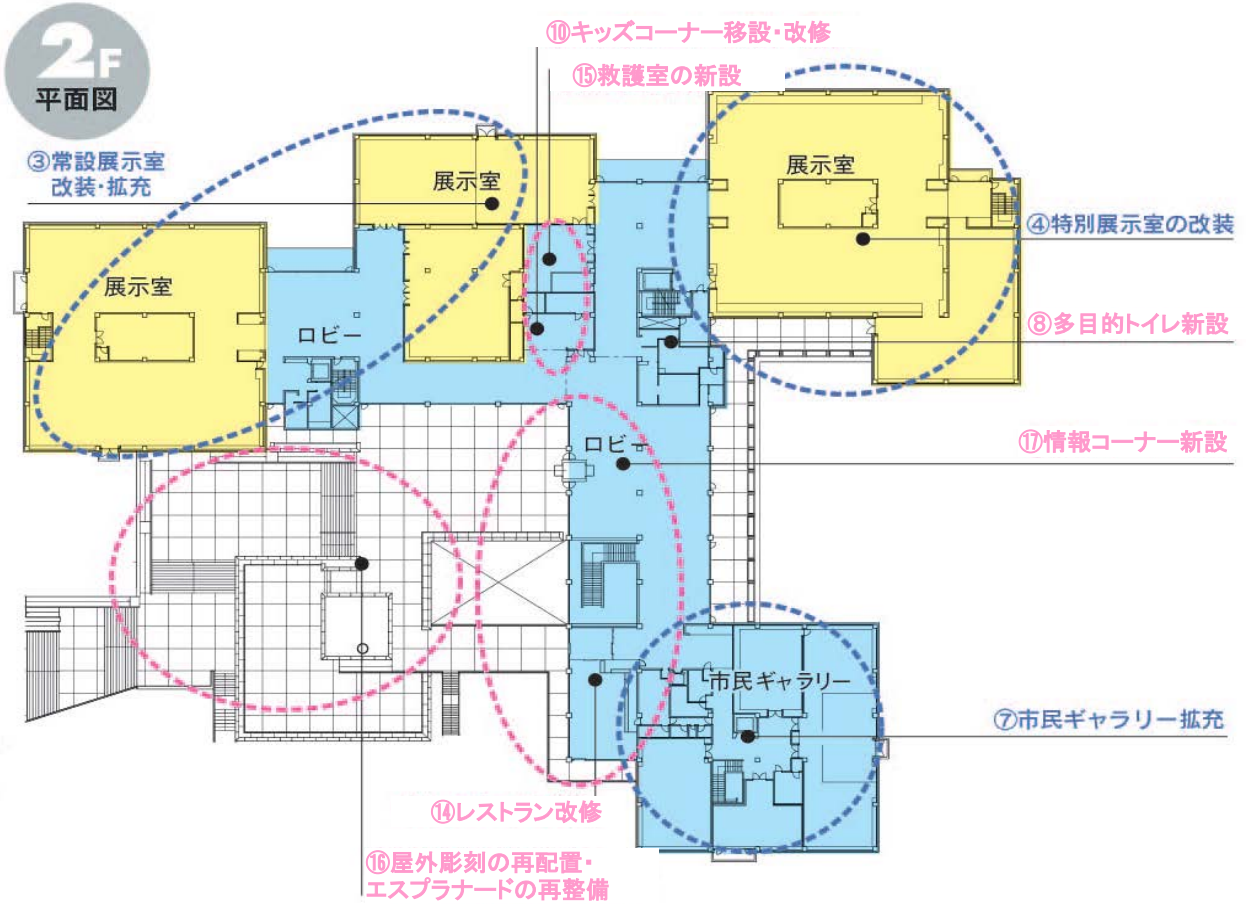
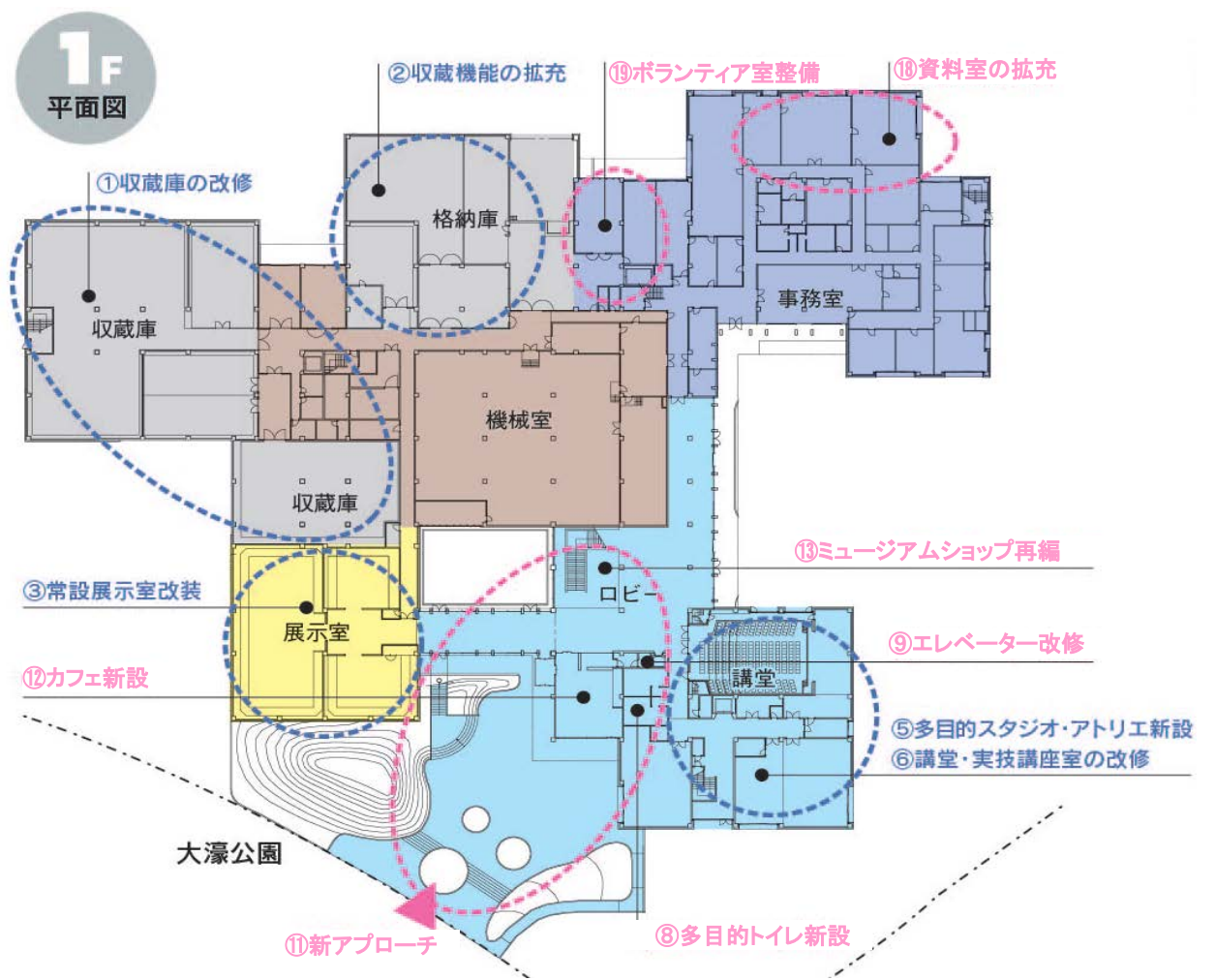
なお、本事業への地場企業の参画についても十分に配慮していく

5. 今後のスケジュール（予定）

平成26年12月	実施方針等の公表（第3委員会報告）
平成27年 3月	特定事業の選定（第3委員会報告） 債務負担行為（議決）
平成27年 4月	入札公告

コンセプト：つなぐ、ひろがる美術館

施設設備の老朽化による基本機能の低下	→	空調設備更新、展示室・収蔵庫の改修による基本機能の回復
収蔵庫・市民ギャラリーなどのスペース不足	→	収蔵庫・市民ギャラリー・常設展示室の拡充などによるスペース不足の緩和
ユニバーサル化の遅れ	→	多目的トイレの新設、エレベーター拡充などによるユニバーサル化対応
利便施設の魅力不足	→	カフェ新設、ミュージアムショップ機能強化、レストラン改修など利便施設の充実強化による魅力向上
集客・誘導力の弱さ	→	大濠公園側からのアプローチ新設による誘導力強化 情報発信・プロモーションなどの拡充による集客力強化



大濠公園園路側からみた新設するカフェとアプローチのイメージ図



1階ロビーに新設するミュージアムショップのイメージ図

I 作品と観覧者をつなぐ“基本機能”

設備・機器の更新とともに、以下の諸室を再編・拡充
 ① 収蔵庫の改修 ② 収蔵機能の拡充(格納庫の収蔵庫化)
 ③ 常設展示室改装・拡充 ④ 特別展示室の改装

II 美術体験と来館者をつなぐ“教育普及機能”

市民参加を促進するギャラリーやスタジオの拡充・新設
 ⑤ 多目的スタジオ・アトリエ新設 ⑥ 講堂・実技講座室の改修
 ⑦ 市民ギャラリー拡充

III やさしさと楽しさがひろがる“対応力・魅力”

施設のユニバーサル化と利便施設の魅力向上
 ⑧ 多目的トイレ新設 ⑨ エレベーター改修 ⑩ キッズコーナー移設・改修
 ⑪ 新アプローチ ⑫ カフェ新設 ⑬ ミュージアムショップ再編 ⑭ レストラン改修
 ⑮ 救護室の新設 ⑯ 屋外彫刻の再配置・エスplanードの再整備

IV 連携と交流がひろがる“発信力・共働力”

情報発信力とプロモーション、連携の強化、市民共働など
 ⑰ 情報コーナー新設 ⑱ 資料室の拡充 ⑲ ボランティア室の整備